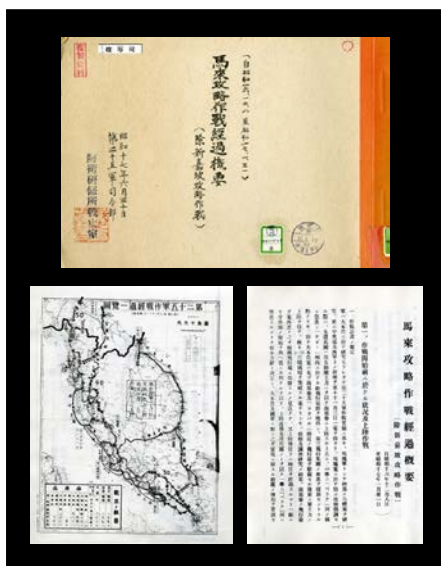


平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

やました ともゆき
《 山下 奉文 1885～1946年 》
—高知県出身の陸軍大将—



馬來攻略作戰經過概要 (登録番号：南西-マレー・ジャワ-8)

山下奉文大将は、明治38年11月、陸軍士官学校(18期)を卒業後、軍事調査部長等の要職を経て、昭和16年1月から4か月間、ナチス政権下のドイツへ視察団長として訪問しています。帰国後は、関東防衛軍司令官などを務めたのち、太平洋戦争緒戦には、第25軍司令官としてマレー作戦を指揮します。本作戦は、日本内地、満州、中国などに所在する部隊をまず海南島に集結させ、約2000キロの海上移動を経てマレー半島北端に上陸し、引き続き約1100キロを突破してシンガポールを攻略するというものでした。昭和16年12月8日、マレー半島に強襲上陸した第25軍は、予定の100日よりも早い70日で英国が誇る東洋の牙城シンガポールを攻略しました。この史料は、第25軍司令部が作成した「馬來攻略作戰經過概要」で、本作戦の詳細が記述されています。



第35軍電報綴 (登録番号：比島-防衛-22)

昭和19年10月20日、山下大将が第14方面軍司令官としてフィリピンのルソン島に着任して約2週間後、米陸軍4個師団約10万人がレイテ島に上陸します。急遽レイテ地上決戦を行うことになった第14方面軍は、レイテ島を防衛する第35軍に対して増援部隊を送りますが、そのほとんどが海上輸送中に沈められて戦局は悪化、組織的抵抗は不可能になります。さらに12月15日、米軍がルソン島南のミンドロ島に上陸したため、25日、レイテ作戦は中止になります。同日、山下方面軍司令官は第35軍に対し、方面軍は「主力ヲ以テ速カニ『ルソン』島ニ於ケル反撃ヲ準備セントス」、第35軍は「其ノ作戦地域内ニ於テ自活自戦永久ニ抗戦ヲ繼續シ国軍将来ニ於ケル反攻ノ支撐タルヘシ」と命令します。この史料は「第35軍電報綴」で、レイテ作戦間の命令や訓示などが綴られています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)

外線：03-3713-5912

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>